

# ダンプあきたの

NO.410 全日本建設交運一般労働組合（略称・建交労）秋田ダンプ支部  
 2021年2月5日発行 〒010-0976 秋田市八橋南 1-2-29  
 TEL018-823-7748 fax018-823-7751  
 Email: kenkourouakita@bz03.plala.or.jp  
 一人はみんなのためにみんなは一人のために、一人が一人の仲間をふやそう、労災保険に加入しよう  
 田中 070 - 5324 - 4053

カマヤん マスク社会 ありむら潜



## ダンプ冬タイヤの注文

再生タイヤ	22,000円 (BS)
	21,500円 (ヨコハマ扱い)
新品タイヤ	35,000円 (BS・14プライ)
	37,000円 (BS・16プライ)
	33,000円 (ヨコハマ)

※冬用 25,000円 (中国・トライアングル)

消費税・送料込みの価格です。注文の時、メーカーを必ずお知らせください。希望の場所に配達します。(配達代無料)

※県外への配達には運賃実費が必要です。代金は3回以内で納入します。

在庫確認が必要なので、注文の際に組合へ問い合わせてください。昨年10月1日より、消費税分値上げになりました。なお、ヨコハマタイヤ販売店扱いは、弘進リトレッド製の再生タイヤとなります。

## 任意保険を自動車共済に切替えよう

安くて事故後のサービスも安心です。見積もりをしますので、事務所にまず電話を。



## 全国ダンプ部会が総会を開く

1月31日(日)、建交労全国ダンプ部会は第26回定期総会を群馬県安中市のホテル磯部ガーデンで開催し、14組織24人(うちオンライン12人)が参加しました。

森谷部会長はあいさつで次のように述べました。「ゼネコン本社や支店と交渉や訪問をしてきたが、つねづね格差を感じた。たとえば、鹿島は3年間で3,000億円の内部留保をため込んだ。私は、この総会をもって部会長を退任する。『石の上にも三年』というが、冷たい石でも座り続ければ暖まってくる。最初は交渉のアボすら取れない状況だった。辛抱強くとりくむなかで事態を変えてきたことを実感する。適正な単価で就労する建交労の使用促進闘争をさらに展開し、労働条件改善にむけて奮闘しよう。全国ダンプは、まだ伸びしろがある。さらに層を厚くしてほしい」

廣瀬事務局長が経過と決算、運動方針と予算を提案し、全体で20人が発言し、提案を承認しました。また次の3役、顧問ならびに幹事会の役員らを選出しました。敬称略。

- 部会長 高橋立顯 (東海ダンプ支部)
- 副部会長 横坂英治 (群馬ダンプ支部)
- 事務局長 廣瀬 肇 (書記局)
- 顧問 森谷 稔 (福島県ダンプ支部)



交通安全推進団体の印  
 組合のプレートを出して堂々と仕事をしよう

# 組合加入者の紹介を!

国交大臣署名にご協力を

ダンプ・建設労働者の皆さんの単価、労働条件改善を求める署名にご協力ください。

家族や知人からも書いてもらい、事務所に送付してください。3月末までをお願いします。



コロナ禍を横目に  
 アフターコロナへ  
 東京オリンピック、デ  
 ジタル化、マイナンバ  
 ーカード 国民所持、  
 大阪万博、カジノ  
 …政府プラン

カマヤん



## 冬も食中毒にご用心

かす汁やシチュー等の具たくさん汁物、おでんは身体が温まり、栄養バランスのいい冬の献立。多めに作っておくと2～3日間、手間いらずで食べられます。

しかし、冬でも、台所は比較的温かく湿度が高いため、油断は禁物。長く放置していたら、菌が繁殖し腐敗します。冷めたら鍋ごと、あるいは保存容器に入れて冷蔵保存しましょう。

厚労省によると、冬はノロウイルスの食中毒が多発する季節です。ノロウイルス食中毒は主に、調理者を通じた食品の汚染により発生します。予防のポイントは調理の際の手洗い、調理器具の洗浄・消毒を欠かさないことです。



私生活、仕事で埋まる テレワーク

## 問題は会食の人数か



## 立春

立春は春分や秋分とともに、二十四節気であり、太陽と地球との位置関係で決められる。冬至と春分の中間点で、この日から春が始まる。立春は長年2月4日だったが、2021年は2月3日である。立春の前日とされている節分も2月2日になる。いずれも1897年以来124年ぶりのこと。

立春日などの変動は、地球が太陽を一周する時間が365日ちょうどではなく、365日プラス6時間弱のため、そのずれが調整されるからだ。4年に1度うるう年を入れて調整するが、それでもずれが残るので、西暦が100で割り切れて400で割り切れない年をうるう年にしないことで、400年に3回うるう年を減らしている。2000年のように400で割れる年の前後の世紀は、立春などの日付がずれやすくなる。2100年にかけて、立春は2月3日と4日を行き来する。

こうした暦は国立天文台の暦計算室が計算し、前年に官報で発表される。